

令和3年度小牧岩倉衛生組合環境センター管理委員会

第1回定例会会議録

1 開催日時 令和3年8月10日(火)午後1時30分から午後2時2分まで

2 開催場所 小牧岩倉エコルセンター 2階研修室

3 出席委員

浅井 実男	委員長	舟橋 逸喜	副委員長	上田 真哉	委員
馬場 正司	委員	稲垣 幸子	委員	武 勤	委員
橋本 弘二	委員	余語 正義	委員	松井 義夫	委員
前川 康男	委員	橋本 秀明	委員		
河村 典久	委員(学識経験者)				
片岡 和浩	委員	藤田 伸也	委員	隅田 昌輝	委員

欠席委員

梶 進	委員	井戸田通敬	委員
-----	----	-------	----

事務局

永井 浩仁	事務局長	三島喜久男	業務課長
後藤 文寿	総務課長	熊崎 礎功	業務課長補佐
服部 和宏	業務課副主幹兼業務係長	今枝 里美	総務課長補佐
佐藤 豪洋	業務課施設管理係長	堀田 易伯	総務課会計係長

4 議題

- (1) 令和3年上半期ごみ溶融炉運転状況について
- (2) 令和3年冬季、春季気象調査について
- (3) 調整池からの排水調査について
- (4) 土壌環境調査について

5 その他

- (1) 環境センター公害防止計画の差し替えについて

6 会議資料

- ・令和3年上半期ごみ溶融炉運転状況
- ・気象調査(通年観測・特別観測)報告書

- ・調整池からの排水調査報告書
- ・土壌環境調査報告書

7 議事内容

後藤総務課長：本日は、お忙しい中、ご出席をいただきましてありがとうございます。それでは、定刻になりましたので只今から令和3年度小牧岩倉衛生組合環境センター管理委員会第1回定例会を開会いたします。最初に事務局より資料の差し替えにつきましてお願いを申し上げます。お手元にA4、2枚、環境センター公害防止計画の差し替えについて資料を配付させていただきましたが、令和3年4月開催の臨時会におきまして配付をさせていただきました公害防止計画の3ページの(5)臭気において記載順に誤りがありましたので記載順を訂正させていただきます。なお、2枚目に公害防止計画の3ページを添付させていただいておりますので後ほど差し替えをお願いいたします。お手数をおかけいたしますがよろしくをお願いいたします。それでは、次第に従いまして委員長からごあいさつをいただきたいと思っております。

浅井委員長：あいさつ

後藤総務課長：ありがとうございました。本日の出席委員は、15名であります。環境センター管理委員会要綱第5条の規定により、会議は成立をいたします。よって、これ以降の議事の取り回しにつきましては、委員長にお願いをいたします。

浅井委員長：それでは、議事に入らせていただきます。議題1「令和3年上半期ごみ熔融炉運転状況について」を議題といたします。事務局の説明をお願いいたします。

三島業務課長：令和3年上半期ごみ熔融炉運転状況について、ご報告させていただきます。現在は「嚴重警戒宣言」下でありますので会議時間短縮のため説明の一部を簡略化させていただきます。

それでは、1ページをご覧ください。ごみ熔融炉運転状況でございます。1号炉につきましては、1月8日からの64日間、4月2日からの22日間、5月13日からの26日間、6月24日からの7日間、合計119日間の運転を行いました。2号炉につきましては、1月6日からの17日間、2月15日からの40日間、4月5日からの62日間、6月22日からの9日間、合計

128日間の運転を行いました。1号炉、2号炉を同時運転する並列運転日数は、91日間でした。

続きまして、2ページをご覧ください。運転実績です。12月末のごみピット残量は、1,588.89 tです。1月から6月までの6か月間の上半期合計は、搬入日数が153日、可燃ごみ量 19,842.04 t、破碎残渣物が2,169.41 t、搬入量合計として22,011.45 t、大塊スラグは 317.21 tでした。溶融処理量につきましては、1号炉の溶融日数119日、溶融量11,021.80 t、2号炉の溶融日数128日、溶融量11,928.90 t、合計日数は247日、合計溶融量が22,950.70 tでした。また、スラグ、メタルの排出量合計は2,349.47 t、ごみ汚水量の合計が156.35 t、これにつきましては、燃焼室へ噴霧処理を行いました。6月末のごみピット残量は、810.50 tでした。搬入量合計を令和2年の上半期と比較しますと、率で1.54%、量としましては、344.20 tの減少でした。

続きまして、3ページをご覧ください。上半期の環境センター調査概要です。(1)の目的は、条例に定める公害防止計画に基づき、環境センターの大気、水質及び騒音、振動、臭気等を測定することにより、住民の健康を保護するとともに、生活環境を保全することを目的としております。(2)の調査場所につきましては、①排ガス濃度は、手分析及び自動連続測定ともに、煙突46mのフロアの測定孔で測定します。②排水は、場内からの雨水排水を、調整池西側流入口で測定します。③騒音・振動については、環境センター敷地境界線上の6ヶ所で測定を行っています。測定場所につきましては、9ページに示すとおりとなっております。(3)の調査機関と測定月につきましては、①排ガス濃度の手分析の調査機関は、(株)環境公害センターにて1月から6月、自動連続測定については、ごみ溶融施設に設置してあります自動分析計で連続測定を行っております。②排水の場内からの雨水排水の調査機関は、(株)環境公害センターにて、6月に測定を行いました。③騒音・振動の調査機関も(株)環境公害センターで1月と4月に測定を行っております。4ページ目の(4)の調査項目につきましては、①排ガス濃度、②排水、③騒音・振動につきましては記載の方法で測定しております。

続きまして、5ページをご覧ください。排ガス濃度測定結果の手分析です。1号炉は2月と4月と6月、2号炉は1月と3月と5月に測定を行い、測定結果につきましては表中に記載されたとおりで、協定基準値以下の値となっております。

続きまして、6ページの排ガス濃度測定結果の自動連続測定につきましては、表中に記載されたとおりで、協定基準値以下の値でしたが、2

号炉の4月に二酸化硫黄の最大値が17ppmと高めの値となりました。原因としましては、ごみ質等の変化によって溶融炉内の燃焼状態が急激に悪化したため、対応としましては、瞬時値の上昇に合わせて消石灰の吹込み量を調整するとともに、溶融炉の上段及び下段への空気吹込み量を減少させるなど適切な対応を行いました。

続きまして、7ページをご覧ください。場内からの雨水排水測定は、6月4日に行っております。No.1カドミウム及びその化合物からNo.28の1,4-ジオキサンまで測定結果につきましては、表中に記載されたとおりで協定基準値以下の値でした。

続きまして、8ページをご覧ください。騒音・振動測定結果です。1、騒音測定結果について、朝の時間帯で説明させていただきます。1月測定場所①42dB、②45dB、③47dB、④43dB、⑤48dB、⑥49dBでした。以下、昼間、夕、夜間の時間帯及び4月に測定した結果につきましては、表中に記載されたとおりで協定基準値以下の値でした。なお、測定値は、敷地境界線上での測定で、除外できない周辺騒音を含んだ値となっております。2、振動測定の結果は、昼間及び夜間の時間帯に測定を行い、測定場所①から⑥の全て30dB未満であり、協定基準値以下の値でした。9ページは各種測定の位置図となっております。

続きまして、10ページをご覧ください。上段のグラフは上半期の可燃ごみの搬入量の実績と前年同月比のグラフです。令和3年が19,842.04tで令和2年より186.66t、率にしますと0.93%の減少となりました。下段のグラフは、総ごみの搬入量の実績と前年同月比のグラフです。令和3年が22,425.65tで、令和2年より346.69t、率にしますと1.52%の減少となりました。11ページ以降は、用語の資料となっております。

以上で報告を終わらせていただきます。

浅井委員長：事務局の説明は終わりました。これにつきまして何かご質問があればお伺いいたします。

浅井委員長：よろしいでしょうか。なければ、議題1については、終了いたします。

浅井委員長：続きまして、議題2「令和3年冬季、春季気象調査について」、並びに議題3「調整池からの排水調査について」及び議題4「土壌環境調査について」を一括議題とします。事務局の説明をお願いします。

熊崎業務課長補佐：気象調査 通年観測報告書と特別観測報告書をご覧ください。1 ページ、第 1 章 調査概要 1 目的、環境センターの稼働に伴う大気汚染物質の周辺の大気環境へ与える影響を把握するとともに環境の現状、評価等の環境保全に役立てる基礎資料を得ることを目的とします。2 調査地点、地点図は 2 ページになります、併せてご覧ください。林の特別観測・大気質測定地点、環境センターからの西の方向約 1.5 km に位置します。大山の特別観測・大気質測定地点、環境センターからの東南東の方向、約 0.6 km に位置します。野口の通年及び特別観測・大気質測定地点、環境センターからの南の方向、約 0.5 km に位置します。3 調査期間は、通年冬季調査期間は令和 2 年 12 月 1 日から令和 3 年 2 月 28 日まで、通年春季調査期間は令和 3 年 3 月 1 日から令和 3 年 5 月 31 日まで、通年年間調査期間は令和 2 年 4 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日まで、特別春季調査期間は令和 3 年 5 月 20 日から令和 3 年 5 月 26 日までの 7 日間です。4 調査機関は、一般財団法人日本気象協会です。5 調査項目及び測定方法については、一覧に示すとおりです。3 ページの調査結果を報告させていただきます。風向・風速 通年観測調査について調査地点は野口地点です。季節冬季の出現の多い風向と頻度は、西北西からの風 16.8%、西からの風 16.1% でした。環境センターが位置する北からの風の頻度は 5.3%、平均風速は毎秒 1.8m で、最大風速は 2 月 17 日 11 時、西からの風、毎秒 9.6m でした。季節、春季の出現の多い風向と頻度は、西北西からの風 12.2%、西からの風 12.1%、東からの風 8.2% でした。環境センターが位置する北からの風の頻度は 6%、平均風速は毎秒 2 m で、最大風速は 4 月 26 日 17 時、西からの風、毎秒 7.5 m でした。年間の出現の多い風向と頻度は、西北西からの風 11.6%、西からの風 11.5%、東からの風 8.7% でした。環境センターが位置する北からの風の頻度は 5.1%、平均風速は毎秒 1.8m で、最大風速は 2 月 17 日 11 時に西からの風、毎秒 9.6m でした。続いて、風向・風速 特別観測調査について報告させていただきます。調査日は、5 月 20 日から 5 月 26 日までの 7 日間であります。期間中の気温、湿度につきましては、環境センター地点で平均気温 19.5℃、平均湿度は 74% でした。風向・風速について、林地点の出現の多い風向と頻度は西北西からの風 14.3%、西からの風 12.5%、北北西からの風 10.1% でした。環境センター方向からの風の頻度は東からの風 0.6%、平均風速は毎秒 1.9m で、最大風速は 5 月 25 日 20 時、西北西からの風、毎秒 5.5m でした。大山地点の出現の多い風向と頻度は西からの風 14.3%、北からの風 12.5%、南東からの風 10.1%、北北東からの風 8.9%、北北西からの風 8.9%、

西南西からの風 8.3%でした。環境センター方向からの風の頻度は西北西からの風 4.8%、平均風速は毎秒 1.6mで、最大風速は5月23日14時、西からの風、毎秒 4.3mでした。野口地点の出現の多い風向と頻度は西からの風 16.1%、西北西からの風 12.5%、南東からの風が 10.1%、北西からの風 10.1%でした。環境センター方向からの風の頻度は北からの風 6%、平均風速は毎秒 2.1mで、最大風速は5月25日20時、西からの風、毎秒 6.4mでした。環境センター地点の出現の多い風向と頻度は北北東からの風 17.3%、北東からの風 13.7%、北西からの風 12.5%、北からの風 10.7%、南からの風 8.3%、平均風速は毎秒 2.1mで、最大風速は5月20日24時、南西からの風、毎秒 4.5mでした。

続きまして、4ページをご覧ください。環境濃度、通年観測・特別観測について報告させていただきます。二酸化硫黄の通年観測の年間の最高値は、通年観測の野口地点、冬季 0.002ppm、春季 0.002ppm、年間 0.002ppm です。特別観測の春季の林地点 0.000ppm、大山地点 0.000ppm、野口地点 0.001ppm です。次に、二酸化窒素の通年観測の年間の最高値は、通年観測、野口地点、冬季 0.022ppm、春季 0.016ppm、年間 0.022ppm です。特別観測の春季の林地点 0.008ppm、大山地点 0.010ppm、野口地点 0.008ppm。次に、浮遊粒子状物質の通年観測の年間の最高値は、通年観測の野口地点、冬季 0.034mg/m³、春季 0.083mg/m³、年間 0.083mg/m³です。特別観測の春季の林地点 0.019mg/m³、大山地点 0.021mg/m³、野口地点 0.025mg/m³です。次に、塩化水素の通年観測の年間の最高値は、通年観測の野口地点、冬季 0.001ppm、春季 0.001ppm、年間 0.001ppm です。特別観測の春季の林地点 0.001ppm 未満、大山地点 0.001ppm 未満、野口地点 0.001ppm 未満でした。

引き続きまして、調整池からの排水調査報告書をご覧ください。1ページ、第1章の調査概要で、1目的、環境センターの稼働に伴う調整池からの排水が周辺へ与える影響について把握することを目的とします。2調査地点は、環境センター内 地点図は2ページ、併せてご覧ください。3調査日は令和3年5月24日、4調査項目及び調査方法については一覧に示すとおりです。3ページ、第2章の調査結果をご報告します。水素イオン濃度 PH7.7、生物化学的酸素要求量 3.5mg/L、化学的酸素要求量 5.2 mg/L、溶存酸素量 9.9 mg/L、浮遊物質 1.0 mg/L 未満でした。

引き続きまして、土壌の環境調査報告書をご覧ください。1ページ、第1章 調査概要です。1目的、環境センターの稼働に伴う土壌のダイオキシン類への影響について把握することを目的とします。2調査地点は、環境センター内、地点図は2ページ、併せてご覧ください。3調査

日は、令和3年5月24日、4調査項目及び測定方法については、一覧に示すとおりです。3ページ、第2章、調査結果をご報告します。1は環境基準の説明で、2調査結果、土壌のダイオキシン類 0.96pg-TEQ/g、環境基準以下でありました。

以上で報告を終わります。

浅井委員長：事務局の説明は終わりました。議題2、3、4につきまして何かご質問があればお伺いします。

余語委員：気象調査の報告書4ページの浮遊粒子状物質で通年観測の野口地点で、冬季 0.034mg/m³、春季 0.083mg/m³、年間で 0.083mg/m³の数値がでておりますが、結構、環境基準値に近いところですけど、これは、春は黄砂等の影響と考えられますが、春季が 0.083mg/m³、年間で 0.083mg/m³ということは、春季に 0.083 mg/m³ 近くの高い数値が結構あるということでしょうか。

三島業務課長：今ご質問いただいた内容ですが、これは、3月の終わりから4月の初めにかけて全国的に黄砂が飛び、その影響で数値が高い値になったものです。

余語委員：ありがとうございました。

浅井委員長：ほかはよろしかったですか。ほかに質問がなければ、議題2、議題3及び議題4については、終了させていただきます。ありがとうございました。

続きまして、「その他」について事務局から何かありますか。

後藤総務課長：事務局から連絡させていただきます。次回の委員会の開催月につきましてご案内をさせていただきます。管理委員会の定例会につきましては、管理委員会要綱によりまして年2回の開催となっております。次回の第2回定例会につきましては、令和4年2月上旬頃を予定しております。開催日時が決定次第ご通知をいたしたいと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

浅井委員長：今連絡がありましたように令和4年2月の予定でおりますので、ご承知おきだけお願ひしたいと思います。

浅井委員長：ほかにございませんでしょうか。なければ、本日予定しておりました議事を終了し、令和3年度小牧岩倉衛生組合環境センター管理委員会第1回定例会を閉会いたします。本日は、お疲れ様でした。